

心臓ペースメーカー植え込み患者に対する当院臨床工学技術課の対策

大分赤十字病院 内視鏡室

臨床工学技術課 ○阿部豪介、光武徹、小田佑樹、丸野祐輔、桑本祐輔

看護師 橋本二美恵、於久賦司代

消化器内科 上尾哲也、高橋晴彦

はじめに

最近の心臓ペースメーカー（以下ペースメーカー）はモード変更をしなくても安全にモノポーラデバイスを使用した高周波治療ができるようになってきた。その理由としてペースメーカーに使用されているリードが電磁干渉を受けにくいバイポーラリードに変わったこと、ペースメーカーがノイズを感知しても一定のリズムでペーシングを維持するリバージョンという機能が備わったことが挙げられる。

このようにペースメーカー植え込み患者に対する高周波治療の安全性は向上してきている。

今回、安全性を高めるため当院での対策を報告する。

方法

安全対策マニュアルを作成した。内容としては、内視鏡医師・看護師はペースメーカー植え込み患者に高周波治療を行う可能性がある場合、できるだけ早く臨床工学技士に連絡する。

対極板をペースメーカーから離して貼る。モニターの設定は **HR** から **PR** に変更する。

治療前後にペースメーカーチェックを行う。以上の4点。

臨床工学技士は患者のペースメーカー情報を収集し、当院にあるペースメーカープログラマー（メドトロニック社、アボット社）でチェック可能であれば臨床工学技士で対応し、それ以外の会社であれば業者に連絡して業者と共に治療前後のチェックを行うこととした。

結果

マニュアルを作成したことで連絡経路が確立され、余裕を持ってペースメーカーチェックが行えるようになった。ペースメーカーの設定によっては高周波治療後に一部の設定が変わることがあったが、前後のチェックを行っていたことでその変化に気づき、すぐに対応することができた。

内視鏡医師からは院内スタッフで対応できるので対応も早く、安心して治療を行えるようになったとの評価を得られた。

まとめ

当院臨床工学技術課の内視鏡業務は主に **ESD** の直接介助とカプセル内視鏡の読影で、内視鏡室専属の臨床工学技士はいない。しかし、ペースメーカー業務を含む様々な業務を行うことで内視鏡の分野でもその経験を生かすことができた。今後もペースメーカー植え込み患者への対応は継続して、安全性の向上に繋げていく。